

令和2年神戸町成人式 258名の新たな門出を祝う

1月12日(日)、令和2年神戸町成人式が中央公民館で開催されました。今年、成人を迎えた方は平成11年4月2日から平成12年4月1日生まれまでの258名。式には191名が出席し、仲間との再会を喜ぶとともに新たな門出を祝いました。

式では、谷村成基町長の式辞、来賓祝辞に続き、新成人を代表して高橋芽久さんが二十歳の主張を述べました。



私は、昨年、私たちの母校である神戸中学校へ教育実習に行きました。五年前に卒業した時から何も変わっていない校舎に毎日通いながら、懐かしき日々を思い出す一方で、実習生である私のことを「先生」と呼んでくれる生徒たちと接するなかで、あの頃の自分とは確実に立場が変わっていることを実感し、本当はまだ未熟な自分だけれど、大人らしく責任を持つ行動をしなければいけないと強く感じました。このように、大人としての立場から生じるさまざまな責任に応えるよう努めることで、一人前

私たちとは二十歳という二つの節目を迎え、社会的に大人と呼ばれる立場となりました。しかし、私は、二十歳になったからといって大人になるわけではなく、この成人式を通して、大人になったことの自覚を持った、これから的人生を生きなければならぬと言われているように思っています。

最後に、今日という日を迎えることができたのも、いつも見守り、常にごとも応援してくれた父、母、家族をはじめ、共に成長してきた仲間たち、進むべき道をご指導してくださいださった先生方、今まで私たちと出会い支えてくださったすべての方のおかげです。今まで本当にありがとうございました。この感謝の気持ちと成人としての決意を胸に、二十歳の主張とさせていただきます。

二十歳の主張



新成人代表
高橋 芽久さん

の大人になつていいのだと私は考えています。一日でもはやく立派な大人になれるよう日々精進していきます。

今回、二十歳の主張を行うにあたり、これまでの自分を振り返り、これからの自分を見つめていた時に、ふと中学三年生の時の教室に飾られていた詩を思い出しました。
『道 道はじぶんでつくる 道は自分でひらく 人のつくったものはじぶんの道にはならない』

毎日、何気なくこの詩を眺めていた中学生の時から今日まで、誰のものでもない、私の、私が歩んできた道が、確かにありました。そして、自分たちの道を拓いていきたいです。今、令和初の成人となつた私たちは、新時代を切り開く大人として、新たな気持ちでまた歩一步確実に自分たちの道を拓いていきたいです。